

2017年10月30日
株式会社オンワードホールディングス
秘書・広報部

～あなたのオンワードの服が、「希望をつなぐ毛布」に～ オンワードの回収衣料品から生産したリサイクル毛布を インドネシアの生活困窮者の方々に寄贈

株式会社オンワードホールディングス(本社:東京都中央区 代表取締役社長:保元 道宣)は、当社の回収衣料品から生産したリサイクル毛布を、日本赤十字社の協力のもと、インドネシア共和国の生活困窮者の方々を中心に3,000枚、緊急救援用の備蓄として1,000枚をインドネシア赤十字社ベンクル州支部に10月25日(水)に寄贈しました。

当社では、“この地球を想う。この服をまとう。”を環境コンセプトに掲げ、経営の重点施策の一つとして、環境経営を推進しています。その一環として、ご愛用いただいた当社の衣料品をお客様から引き取り、可能な限りリユース・リサイクルすることを通じて、衣料品循環システムの構築を図る「オンワード・グリーン・キャンペーン」を、春と秋の年2回定期的に実施。回収した衣料品の一部からリサイクル毛布などを生産し、日本赤十字社の協力のもと世界の被災地や生活困窮者の方々のために寄贈しています。

第10回目の支援活動先であるインドネシア共和国は、経済成長が続く一方で所得格差が拡大しており、同国の約2,800万人が(※)国内貧困ライン以下で生活しています。

今回はベンクル州の生活困窮者の方々を中心に、孤児院や貧困層、寄宿学校のほか、公的医療施設や公的介護施設等へ毛布3,000枚を寄贈しました。また、毎年災害の影響を多く受けていることから、リサイクル毛布1,000枚をインドネシア赤十字社ベンクル州支部に緊急救援用の備蓄として寄贈しました。

(※)アジア開発銀行調べ2014年3月時点。インドネシア政府の定義では、国内貧困ラインは、月給Rp 302,735 (US\$25)すなわち、1日当たり約82セントで生活している人。

なお、今秋の「オンワード・グリーン・キャンペーン」は、全国の百貨店・ショッピングセンターで9月7日(木)から順次実施しており、約4万人のお客様から約30万点の衣料品をお引き取りできる見通しです。この回収衣料品の一部から新たにリサイクル毛布を作り、今後も日本赤十字社の協力のもと、世界の被災地支援などに活用していく予定です。

ーリサイクル毛布寄贈実績ー

第1回 2010年 5月	バングラデシュ	3,000枚	第7回 2014年 10月	ミャンマー	4,000枚
第2回 2011年 2月	カザフスタン	3,300枚	第8回 2015年 10月	ベトナム	2,000枚
第3回 2011年 9月	日本(東北被災地)	1,000枚	2016年 4月	ベトナム	2,000枚
第4回 2012年 3月	中国	2,200枚	第9回 2016年 2月	ネパール	2,000枚
第5回 2012年 9月	モンゴル	2,000枚	第10回 2017年 10月	インドネシア	4,000枚
第6回 2013年 10月	ネパール	4,000枚	累 計		29,500枚

◇第1回～第2回は「UNHCR」を通じて寄贈。第3回以降から「日本赤十字社」を通じて寄贈。



毛布寄贈の様子



毛布寄贈の様子



毛布を手にする子供たち